

目的に応じた記述 通過率 41.5%

解答類型		割合 (%)
○	(例) 勇一はなみだが出そうになりました。 (そのとき、)女の子が声をかけてくれました。	41.5
×	主語は補えているが、「…出そうになって」で文を分け、二文にしていない。	5.1
×	「女の子」という主語は補えているが、「勇一」という主語を補えておらず、「…出そうになって」で文を分け、二文にすることもできていない。	3.8
×	「女の子」という主語は補えているが、「勇一」という主語を補えていない。文を分け、二文にすることはできている。	3.5
×	「…出そうになって」で文を分け、二文にすることはできているが、主語が補えていない。	1.6
×	上記以外の解答	33.1
—	無解答	11.4

依然として課題です！

平成 27 年度
54.4%

平成 28 年度
41.5%

この問題は、まず動作の主体が誰なのかを文脈から判断することが必要である。「なみだが出そうになっ」たのは誰なのか、「声をかけてくれ」たのは誰なのかを文脈から理解した上で、それぞれの主語を補って、一文を二文に分けなければならない。誤答を見ると、文を分けることと、適切な主語を補うことのどちらにも課題があったことが分かる。

イ
ア
そのとき、

【注意】
○ 主語をそれぞれ入れて、ア・イの [] の中に一文ずつ書くこと。
主語は、「勇一」または「女の子」を使うこと。

(1) 西川さんは、「物語の下書きの一部」の中の「なみだが出そうになって、そのとき、声をかけてくれました。を、だれがしたことかが伝わるようにつなぎ言葉を使って二つの文に分けることにしました。次の【注意】にしたがって書きましよう。

ふと気づくと、勇一は大きな木の根元にたおれていました。起き上がって辺りを見わたしても、さっきまでの美しい花畑はどこにもありません。見たこともない森が広がっています。勇一はどひあえず歩き出しましたが、どこへ行っていいか分かりません。辺りは暗くなってきました。なみだが出そうになって、そのとき、声をかけてくれました。

内容の系統

第1・2学年 伝国イ(カ)
・主語・述語の関係

第1・2学年 書くことウ
語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。

第3・4学年 書くことウ
書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

第5・6学年 書くことウ
事実と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

伝国…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

提案 主述の関係や文のつながりを意識して書く必然性のある言語活動を通して指導しましょう。

- 主述の関係や文と文とのつなぎ方を取り出して指導することも必要ですが、それらを意識して書く必然性のある言語活動を通して指導していくことが大切です。例えば、今回の問題のように、物語を書く活動の中で、児童が書いた文章から課題のあるものを取り出し、何がどうおかしいのかを考えさせた上で、個々の文章を見直させるような学習を仕組むことなどが考えられます。
- また、それ以外の授業でも、文章を書かせた際には、主述のねじれや文のつなぎ方などについて継続的に指導していきましょう。日々の積み重ねが大切です。

ローマ字の書き 通過率 52.3%

年度	出題した言葉	通過率 (%)
27	ぬりえ	69.7
26	みなと	72.9
25	なかま	71.0
24	はなみ	70.4
23	のはら	68.1
22	ひなた	67.4
21	はな	69.1

今年度、濁音の「だ」と、母音と子音の組み合わせではない「ん」の音を含む言葉を初めて出題したところ、例年に比べて通過率が下がる結果となった。

今年度は、全国・学力学習状況調査でもローマ字の書きが出題され、「りんご」の書きの正答率が53.2%と、濁音や「ん」の音で表記された言葉を正しく書くことに課題が見られたことから、児童は、濁音や「ん」の表記につまずきやすいと考えられる。

かんだ

神 田

①

②

とうきょう Akihabara

Tōkyō

2 次は、【駅の案内板】です。①・②の間に答えましょう。

① に当てはまる「かんだ」というローマ字を書きましょう。

内容の系統

第3・4学年
伝国ウ(ア)

第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。

伝国…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

解答類型		割合 (%)
○	Kanda	27.5
△	KANDA, kanda	24.8
×	KA, N, DA, ka, n, da, Kaのうち、一つの間違い	19.0
×	KA, N, DA, ka, n, da, Kaのうち、二つの間違い	7.8
×	Kanda, KANDA, kanda と書いているが、罫線を意識していないもの	1.7
×	kaNda 等	1.5
×	上記以外の解答	14.5
—	無解答	3.2

提案

ローマ字を読んだり書いたりする必要性を感じさせるとともに、ローマ字の規則性を押さえ、日常生活の中で継続的に指導しましょう。

- 児童の周りには、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットがあふれているとともに、コンピュータの普及により、文字入力の際にローマ字を使う機会が増えるなど、ローマ字はより身近なものとなっています。まず、児童にそれらの具体的な場面を示し、ローマ字を学ぶ必然性を感じさせましょう。その際、日本語の音節が主に子音と母音の組み合わせであること踏まえながら、ローマ字の規則性について理解させていくことが大切です。
- また、学校生活でも、名前や住所等をローマ字で書く機会を設けたり、異文化交流の中で、ローマ字で書いたものを提示させたりするなど、意図的、継続的に指導していくことが必要です。校内の様々な場所の名前をローマ字で表示し、児童の目に触れやすくする等の工夫も考えられます。